

つながる

Tsu-na-ga-ru

1

月号

2025
January
No.20



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

安心・安全な出産に向けた トータルなサポート。

地域周産期母子医療センター特集

CONTENTS

- 1 治療を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

当院は、愛知県西三河南部東医療圏の地域周産期母子医療センターとして、周産期における高度な医療を24時間体制で提供しています。本特集では、当センターの医療に焦点を当て、多職種が連携しながら、地域のすべての妊婦さんと赤ちゃんの命を守るために尽力するスタッフの取り組みをご紹介します。ぜひご一読ください。

SPECIAL REPORT

安心・安全な出産に向けた トータルなサポート。

地域周産期母子医療センター特集

多職種力を結集し
お母さんと赤ちゃんを守り抜く。

CHAPTER 01 思いがけない病气から ハイリスク出産に。

初秋のある日、岡崎市民病院に妊婦が救急搬送されてきた。妊娠30週、自宅で突然の出血、激しい腹部の痛みも伴っていた。すぐさま地域周産期母子医療センターのスタッフが対応にあたり、超音波検査などから子宮内膜症の増悪による出血と診断した。子宮内膜症とは子宮の内側を覆う子宮内膜に似た組織が子宮の内腔以外の場所にできてしまう病气。妊娠中に適切な治療を行わないとこうした緊急事態を招くことがあるという。出血が多いため、このままでは母子ともに命の危険があり、赤ちゃんを急いで取り出さなくてはならない。産科医と麻酔科医、手術室の看護師、助産師などによる連携によって緊急帝王切開が行われ、無事に1400gの赤ちゃんが生まれた。その場に立ち会っていた小児科医は即座に赤ちゃんに人工呼吸器を装着し、新生児集中治療室(NICU)へ運んだ。一方、母体は止血を施した上でICU(集中管理室)で全身状態を整え、子宮内膜症については保存的治療を行っていることになった。

この事例を振り返り、地域周産期母子医療センターの後藤真紀センター長は「母子ともに無事で本当に安堵しました。このケースのように、当センターでは、産科部門と新生児部門、各診療科が緊密に連携し、

24時間体制であらゆるハイリスク出産に対応しています」と話し、次のように続けた。「また、当センターでは出産だけでなく、妊娠前から妊娠中、出産後まで継続して、妊婦と赤ちゃんの健康を守るために力を注いでいます。妊娠前では、プレコンセプションケア(将来の妊娠を考えながら自分たちの生活や健康に向き合うこと)に取り組んでいるほか、不妊生殖医療にも力を入れています。妊娠中はリスクコントロールを行い、出産後もインターコンセプションケア(産後から次の妊娠までの健康管理)を行っています。これらのサポートには、助産師、看護師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフなど、多様な職種が関わり、安心・安全な妊娠・出産となるように、出産、産後のケアまでトータルに支えられるのが、当センターの最大の強みだと思います」。

COLUMN

- 産後女性の死因第一位は自殺で、その原因は「産後うつ」と言われている。
- その深刻な課題に対応するために、岡崎市民病院ではメンタルケアに注力。出産後、不安の強い母親には臨床心理士が必要なケアを提供するほか、母性看護専門看護師や助産師が中心となり、母子の愛着形成を促すケアにも力を注いでいる。さらに、ソーシャルワーカーや行政との連携を深め、地域全体で「産後うつ」の予防や対策に取り組んでいる。



CHAPTER 02

分娩のリスクを低減するため 妊娠中の検査に力を注ぐ。

妊娠・出産は安全なものと思われがちだが、実際はさまざまな危険を伴う。緊急対応で最善を尽くしても、母子の命を救えないケースがあるのも事実だ。では、そうしたリスクを低減し、安心・安全な出産に繋げるにはどうすればいいだろう。「やはり早い段階でリスクを発見して、周到に準備していくことが必要です」と、後藤は言う。「たとえば、冒頭の子宮内膜症のほか、卵巣腫瘍、高血圧や糖尿病、内分泌甲状腺疾患などの慢性疾患をもつ人は、少なからず分娩リスクを抱えています。また、前回の分娩で出血が多かったり、胎盤トラブルのあった人もリスクが高くなります。こうした妊婦さんに対して、出産に向けて適切なリスクコントロールを行っていくとともに、リスクに応じて必要な手術や薬物療法を提供していくことが必要です」（後藤）。

妊娠中にリスクを早期発見するには、出

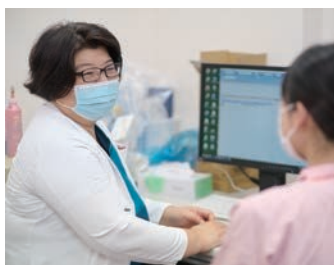
生前の検査が重要である。同院ではすでに産婦人科外来で遺伝相談を実施し、出生前のNIPT（無侵襲的出生前医学的検査）や羊水検査をはじめとした出生前の遺伝学的検査などを行っているが、今後さらに、その体制を一歩進めて、妊婦の検診や胎児の超音波検査も含めたトータルなスクリーニング検査体制の構築をめざしている。「不安のある方は妊娠中に一度受診していただき、ご本人の健康状態から胎児の状態まで細かく診て、必要なカウンセリングを行いたいと考えています。問題がある場合は当院で出産までサポートし、問題がない場合は地域のクリニックで安心して出産していただく。当院と地域のクリニックが役割分担をしながら連携することで、ハイリスクの妊婦さんを安全な出産に導いていきたいと考えています」（後藤）。すべては、地域のお母さんと赤ちゃんを守り抜くために。その揺るぎない使命感のもと、同院は地域医療連携と周産期医療の充実にこれからも力を注いでいこうとしている。

BACKSTAGE

限られた医療資源を最適化し 地域の周産期医療を守る。

●医師の過酷な労働環境や医療訴訟が多いことなどを背景に、全国的に産婦人科の医師不足が問題となっている。その状況はここ岡崎市でも同様で、産婦人科を志す若い医師は減少しているのが実情だ。

●地域の周産期医療を守るには、こうした限られた医療資源を最適化するように地域の医療機関が協力し合うことが何よりも重要である。その連携力こそが、安心・安全な妊娠・出産を支える鍵を握っているのではないだろうか。



治療を学ぼう

今回のテーマ

N I C U

NICU(新生児集中治療室)とは?

産まれたばかりの赤ちゃんが、
安心してお家に帰るための一時的な場所です。

24時間体制で、 新生児の診療を行う。

NICU(新生児集中治療室)は、早産児や低出生体重児、健康上の問題を抱える赤ちゃんに、専門的な医療を提供する特別な場所です。当院のNICUは6床を備え、西三河南部東医療圏の新生児医療の中心として、24時間体制で多数の新生児診療を行っています。

赤ちゃんは、お母さんのお腹の外で、自分で呼吸をし、栄養を摂取できるようになる必要があります。何らかの課題を抱えた赤ちゃんに対して、NICUでは、赤ちゃんの呼吸をサポートし、栄養管理を徹底することで、安全にご家庭へ戻れるよう支援を行っています。退院の目安は、呼吸が安定し、赤ちゃんができることが増え、体重が2,300g以上に達することです。



院内外の専門医が連携。 胎児の時期からも関わる。

NICUでは、小児科医を主治医とし、眼科医、小児外科医、心臓外科医など各分野の専門医が連携して治療にあたります。未熟児網膜症のリスクがある場合は眼科医が対応し、消化管の問題には小児外科医が治療を担当。未熟児動脈管開存症など心疾患の場合は、外部の心臓外科医による手術や大学病院への搬送を行うなど、赤ちゃんにとって最善の治療を提供しています。また、当院では出産前コンサルト小児科医(2名在籍)と小児循環器医が胎児期に心臓エコーやMRI検査を実施し、産科と連携して病気を早期発見。出生直後からの迅速な治療に繋がっています。これらの体制により、赤ちゃん一人ひとりに最善の医療を提供しています。



Doctor's message



小児科 統括部長
日本小児科学会専門医
林 誠司

診療時は必ずお子さんに話しかけ、 お子さんの思いを考えています。

お子さんがNICUに入ることは、ご家族にとって大きな不安やショックだと思います。しかし、NICUはお子さんが安心してご自宅に戻るための一時的な場所です。私たちは、ご家族と協力しながらお子さんを支えることを大切に行っています。その一環として「連絡ノート」を活用し、医療チームがお子さんの様子を記録し、ご家族が返信を書くことで温かなコミュニ

ケーションを築いています。診療時には、私自身がお子さんに話しかけ、その気持ちを考えながら寄り添うことを心がけています。私たちは、ご家族とともにお子さんの健やかな成長を全力で支えていきます。



岡崎 の Team

チーム医療を知ろう

今回のテーマ

母性看護専門看護師

高水準な看護ケアを提供する母性看護専門看護師。
多職種と協働し「母子の安全」を守ります。

妊産婦に対して 専門的な看護ケアを提供。

当院の地域周産期母子医療センターは、通常分娩はもちろん、ハイリスク分娩や救急対応に至るまで、地域の周産期医療を高い水準で総合的に支えています。妊産婦さんやご家族に安心と信頼をお届けするため、医師、助産師、看護スタッフが一丸となり、それぞれの専門性を活かした質の高いケアを提供しています。

特に、母性看護専門看護師は、妊娠中から分娩、産後の母体回復に至るまで、妊産婦さんの心と体を支えるスペシャリストとして重要な役割を担っています。専門的で質の高い看護ケアを通じて、不安や悩みに寄り添いながら、妊産婦さんが安心して過ごせるようサポートします。また、スタッフ間の密接な連携を強化し、それぞれの患者さまに最適なサポートを心がけています。



チームのボトムアップを 図り、看護力を高める。

少子化が進む中、現代の母親は、出産や育児に関する相談先や頼れる場所が少なくなっています。そんな状況の中、妊産婦さんに寄り添い続けるのが、助産師や看護師の役割です。母性看護専門看護師は、妊産婦さんを取り巻く環境にも目を配り、入院中からその背景を踏まえた関わりを大切に、外来や病棟での指導や教育に努めています。

特に、ハイリスク出産や複雑な家庭環境を抱える方々には、専門看護師自身が看護支援を行うだけでなく、助産師や看護師の相談役となりサポートを実施。1カ月健診後も妊産婦さんが自信を持って育児を行えるように、環境を整えていきます。また、医師、助産師、看護師、臨床心理士などで構成されるチーム全体のスキル向上にも貢献しています。



Staff's message



助産師・母性看護専門看護師
地域周産期
母子医療センター 母性
看護局看護長
早瀬 麻観子

地域の保健師や医師と連携強化し、 産後ケアの充実に努めています。

地域周産期母子医療センターでは、多職種が役割分担しながら協働し、「お母さんと子どもの安全を守る」という目標を共有しています。特に力を入れているのが産後ケアと地域との連携強化です。

退院後、地域の保健師や小児科診療所と関わる際には、お母さんの状況を適切に伝えることが大切です。それがないと、いきなり

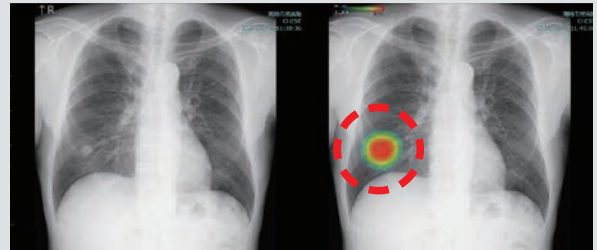
高い目標を求められ、負担になることもあります。「この方はここから始めてください」と具体的に伝えることが私の役割です。直接電話で情報を共有したり、市が主催する会議に参加するなど、顔が見える関係を築くことで、地域との連携を強化し、産後もお母さんが安心して過ごせる環境づくりに努めています。



HOSPITAL NEWS

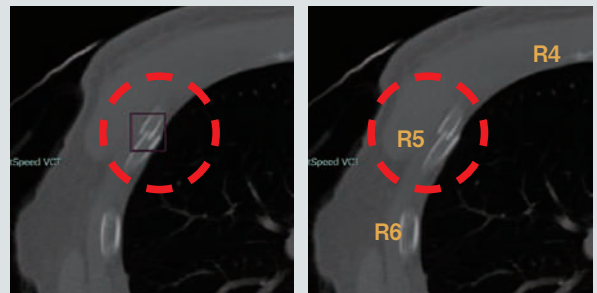
診断精度の向上を目指して、胸部X線とCT検査でAI診断技術を導入。

当院では、2024年9月25日より「胸部X線」および「CT検査」において「AI診断技術」を導入しました。この技術は、診断精度の向上と、医師の負担軽減や患者さんの安心・安全を支えるものです。胸部X線では、腫瘍、結節、気胸、肺炎といった異常をAIが自動検出し、色分け表示で視覚的にサポートします。特に呼吸器分野の専門外の医師にとって、AIの補助により見落としが防止され、迅速な精密検査への対応が可能となっています。実際に、症状が乏しく発見が困難な気胸をAIが早期に指摘し、治療につながった事例も報告されています。



胸部X線(左) AI診断(右)
病変がわかりやすくマーキングされている

CT検査では、肺の小さな結節や肋骨骨折の検出、大動脈径の正確な計測など、放射線科医専用の高度な機能が充実しています。これにより診断の精度とスピードが向上し、客観的なデータに基づく継続的な経過観察も可能となりました。これらのAIツールは、医師の「第二の目」として働き、患者さんにとっても大きな安心材料となっています。



肋骨骨折の症例画像／骨折部位が紫色の囲みで表示され(左)肋骨の番号が黄色で表示されている(右)

当院では、こうしたAI技術を活用することで、さらなる医療の質向上を目指しています。引き続き、患者さん一人ひとりに寄り添い、安全で信頼される医療提供に努めてまいります。

職員の名札をリニューアル!

当院職員の名札が、新しく生まれ変わりました。名札にはひらがな表記を採用し、どなたにとっても読みやすくなりました。さらに、公式キャラクター「OKAMIN」も加わりより親しみやすいデザインに。この「OKAMIN」のキャラクターは、才能あふれる若きアーティスト、慈雨さんが手掛けています。来院された際は、新しい名札にぜひご注目ください。



20分で聞けちゃう!
旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングチャージ」で
当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00~

令和7年
1月16日(木)

牡蠣の美味しい季節になりました。
でもノロウイルスに気をつけて!!
感染管理認定看護師 杉浦 聖二

2月20日(木)

妊婦さん・授乳婦さん、
ただしく薬を使いましょう!
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
滝川 浩子

3月27日(木)

骨折リエゾンサービスってな~に?
リハビリテーション科 統括部長 大西 哲朗



エフエム
EGAO
(76.3MHz)



これまでの
放送内容は
こちらから!



岡崎市民病院
公式ホームページ




Instagram



@okazaki.hp


X (旧Twitter)



@okazaki_hp


YouTube



岡崎市民病院

検索

岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>

つながる
Tsu-na-ga-ru

2025
No.20 1月号

発行責任者／院長 小林 靖 発行／岡崎市民病院 広報戦略チーム
記事提供／中日新聞広告局 編集協力／プロジェクトリンク事務局 発行／2025年1月